



さらなる感染症対策を!

▼新型コロナウイルスの感染が再び拡大し、連日、過去最多の感染者数を更新しています。日本医師会は「第3波とも考えてよいのではないかと危機感を表しています。山梨県内においても感染者数が急増し、高校や医療機関でクラスターが発生しています。これから本格的な冬を迎え、気温も下がり、空気が乾燥して飛沫が長時間漂いやすくなります。また、インフルエンザとの同時流行も危惧されます。▼本校では、これまでご家庭の協力もいただき、登校前の検温と健康観察カードの記入、登校時における検温と体調チェックを毎日行っています。また先週からは、来校者に対しても、校舎内に入る際には検温と手指消毒を行っています。▼今後もこれらの感染症防止対策を徹底すると同時に、基本である換気と手洗い、マスクの着用を徹底していきいます。ご家庭においても、引き続き感染症予防対策へのご理解とご協力をお願いいたします。

コロナ禍での図書集会

▼11月5日、図書委員会主催の図書集会が行われました。はじめに、読書感想文コンクールで地区入選になった3年生の鈴木美蘭さんと1年生の水野心寧さんが、読書感想文を発表してくれました。その後、図書委員による「おすすめ本の紹介」と「図書クイズ」が行われました。▼今回はコロナ禍で開催となったので、座席の間隔をあけたり、ホワイトボードを使って発表したりと、様々な感染防止策を講じてくれました。▼本校の図書館にもたくさんの良書があります。今回の図書集会を機会に、是非足を運び、読書に勤しんで欲しいと思います。



「落ち穂拾い」と思いやり

▼山梨県民なら「ジャン＝フランソワ・ミレー」を知らない人はいないと思います。ミレーの代表作には「種まく人」や『落ち穂拾い』があり、山梨県立美術館に展示されています。▼この『落ち穂拾い』には3人の女性が描かれています。実はこの人たちは畑で刈り取りをした時に落ちて散らばった麦の穂を拾っています。しかし、麦畑の持ち主ではありません。昔のことです。近くで戦争があったり、伝染病がはやったりして生活に困る人、特に年をとり働けなくなった人々は苦しい状況に追い込まれました。そこで村人がとった方法は、刈り取る時に散らばって落ちた穂をそのままにしておくことでした。つまり、さり気なく落ち穂を残しておくこと。そして、気兼ねなく持って行ってもらうことでした。▼これはよその国の昔のお話です。しかし、この細やかな心遣い、人を思いやる気持ちは、今も昔もなく、国の違いもないと思います。そんなミレーの代表作が、山梨県立美術館に所蔵されているというのは、山梨県民としてのちょっとした自慢（誇り）ですね。ちなみに、11月20日の県民の日は、県民は全ての人が無料で入場できるそうです。時間のある人は、感染症対策をしながら、見学してみてもはどうでしょうか。



本校の伝統「あいさつ」

▼11月5日から1週間、生徒会本部が企画して「あいさつ運動」が行われました。毎朝15分程、全校生徒が当番を決めて大きな声であいさつをしてくれました。▼「あいさつ」は本校の良き伝統のひとつです。これからも、みんなの手でしっかりと引き継ぎ、気持ちのよい学校生活が送れるよう願っています。



